



2021年度実施

アンケートにご協力いただき、  
ありがとうございました！

# 女性と防災に関するアンケート調査報告

大阪公立大学 生田研究室・大阪市 市民局 共同研究



## アンケート結果から分かったこと

1

参加している地域活動の中で、「防災活動・災害救助活動」と回答した女性は**5.8%**でした。

2

防災活動への女性の参加状況は「参加しにくいけれど、参加したいと思う」と回答した女性が最も多く**27.0%**でした。

3

女性が地域活動に参加していない・企画段階から関わっていない理由の一番は「**情報が得られない**」ことでした。

## 調査概要

実施者	大阪公立大学 生田英輔研究室 大阪市 市民局
対象者	主に大阪市在住・在勤・在学者
実施期間	2021年12月15日～2022年2月15日
実施方法	オンラインによるアンケート
回答数	520件

## 実施目的

大阪市では「大阪市男女共同参画基本計画～第3次大阪市男女きらめき計画～」において、地域防災活動への女性の参画を促進することを目指しています。

地域防災活動への女性参画促進に向けた具体手法の検討のため、実態把握の調査を大阪市市民局ダイバーシティ推進室男女共同参画課及び大阪市立大学大学院生活科学研究科生田英輔研究室（現 大阪公立大学）で実施しました。

本調査は、女性の参加促進を目的にしたものであり、この報告では女性の回答項目に着目してご報告しています。

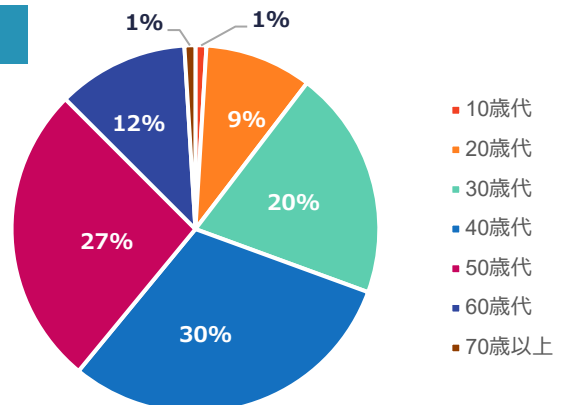
（女性の回答のグラフには  のマークをつけています。）

## 回答いただいた方の属性

### 性別

	回答数	%
女性	466	89.6%
男性	50	9.6%
答えたくない	4	0.8%
合計	520	100.0%

### 年代



### 同居家族

回答数の多かったベスト3は下記のとおりです。

	回答数	%
1 パートナー	302	58.1%
2 子ども乳未以外	163	31.3%
3 単身世帯	90	17.3%

10歳代から70歳代以上の幅広い世帯の方からご回答いただきました。  
回答率を年代別に見ると、1位40歳代、2位50歳代、3位30歳代でした。

## 回答いただいた内容

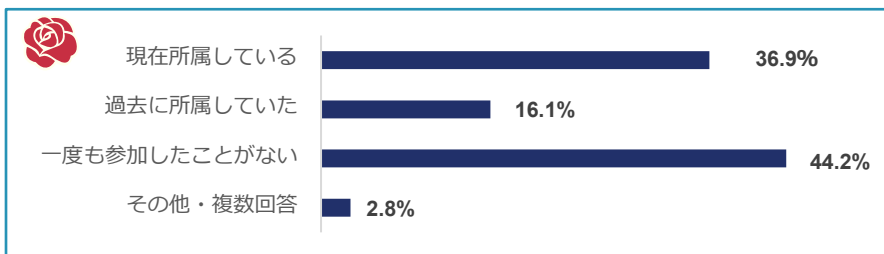
### 女性が参加している地域活動についてBest 5は？（複数回答）



		回答数	%
1	芸術・文化・スポーツにかかわる活動	62	13.3%
2	子ども会など青少年の育成にかかわる活動	47	10.1%
2	子育て支援にかかわる活動 医療や健康にかかわる活動	47	10.1%
4	環境美化、環境保全など環境にかかわる活動	42	9.0%
★	活動していない	290	62.2%

女性が参加している活動の中では、「芸術・文化・スポーツに関わる活動」が、最も多く、男性が参加している活動の中では、「防災活動・災害救援にかかわる活動」が22.0%と最も多い回答でした。

### 地域団体への女性の所属状況は？（複数回答）



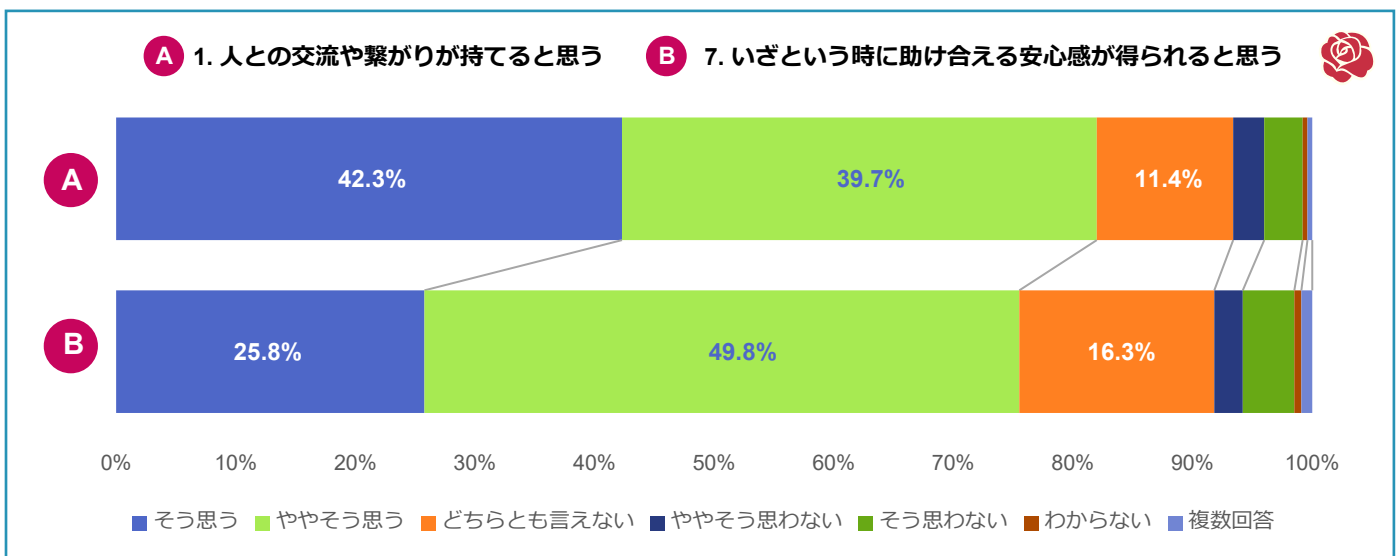
地域団体への所属状況について、女性は「一度も参加していない」と回答した人が206人（44.2%）と最も多く、男性は「現在所属している」が、58.0%と最も多い回答でした。

### 地域活動に関するイメージは？

地域活動に関するイメージを次の項目について伺いました。

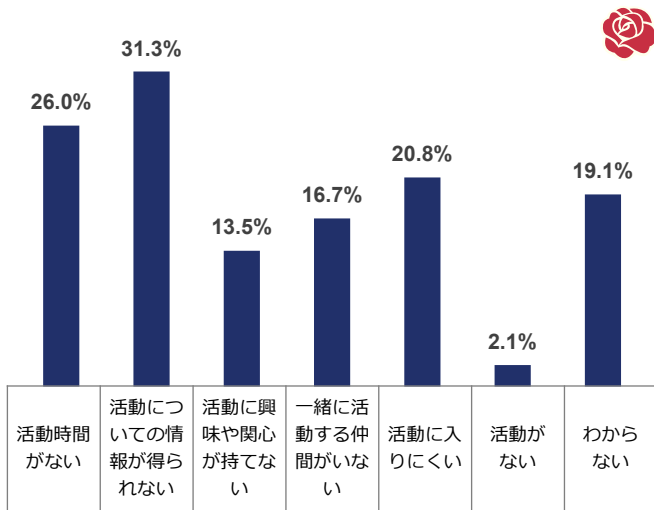
1. 人との交流や繋がりが持てると思う
2. 知識や経験が得られると思う
3. 心身の健康が保たれると思う
4. 定期的な参加の必要性があり、窮屈だと思う
5. 出番ややりがいがあると思う
6. 人間関係が煩わしくなることがあると思う
7. いざという時に助け合える安心感が得られると思う
8. 奉仕・貢献・ボランティアを行えると思う

「そう思う」「ややそう思う」について回答の多かった項目をグラフにしました。

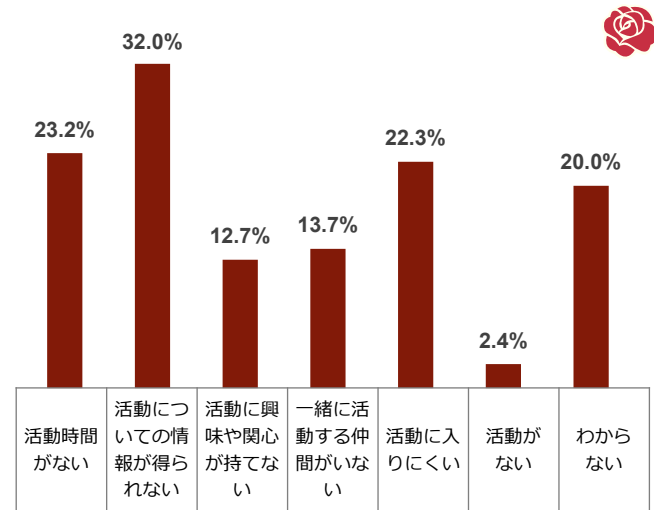


## 地域活動に参加・参画していない理由は？（複数回答）

### 女性が地域活動に参加していない理由



### 女性が地域活動に企画段階から関わっていない理由



「地域活動に参加していない理由」も「企画段階から関わっていない理由」も、最も回答が多かったのは「活動についての情報が得られない」であり、次に回答が多かったのは、「活動する時間がない」でした。

一方で、男性で最も多かったのは「わからない」でした。

## 地域防災についての心配事は？女性466人に聞きました。（複数回答）

### 1 災害が起きた時、避難する際に心配なことBest 3

順位	心配なこと	回答数
1	家族との連絡が取れなくなる	357
2	自分が安全に避難できるか	278
3	正確な情報を得られなくなる	263

### 2 避難生活で心配なことBest 3

順位	心配なこと	回答数
1	ライフラインが停止して自宅で生活できなくなる	390
2	食料や生活用品が手に入らなくなる	340
3	家の倒壊・破損・家具の転倒等で自宅で生活できなくなる	319

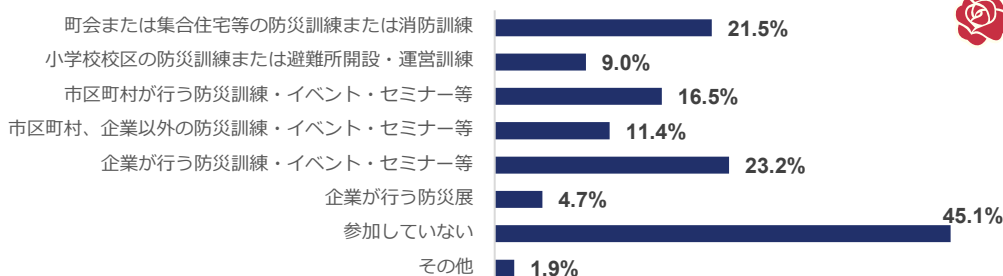
### 3 災害時避難所に希望することBest 3

順位	希望すること	回答数
1	プライバシーが保たれたスペース	394
2	男女別のトイレ・浴室・更衣室	391
3	夜間でも明るく安全なトイレとその周辺の環境	350

男性の「災害が起きた時、避難する際に心配なこと」と、「避難生活で心配なこと」のベスト3は女性と同じでした。

また「災害時避難所に希望すること」に関しては、  
 1位「男女別のトイレ・浴室・更衣室」  
 2位「プライバシーが保たれたスペース」  
 3位「夜間でも明るく安全なトイレとその周辺の環境」  
 でした。

## 過去3年間に参加または参画した防災イベントは？（複数回答）



女性は「参加していない」が最も多い回答だったのに対して、男性は「企業が行う防災訓練・イベント・セミナー等」と回答した人が最も多かったです。  
 男女共に、「企業での訓練」、「居住地での訓練」に多く参加または参画しています。

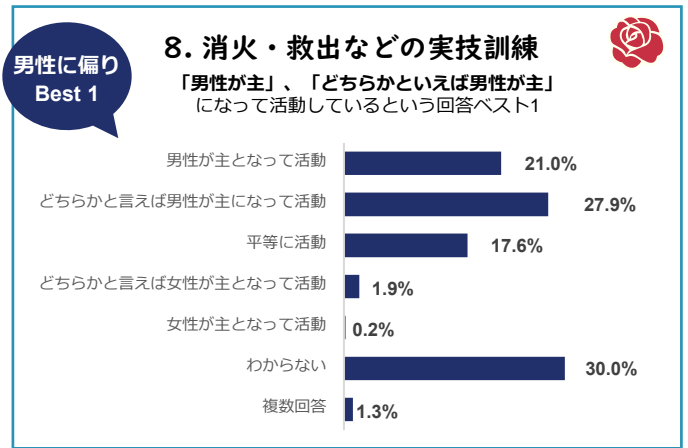
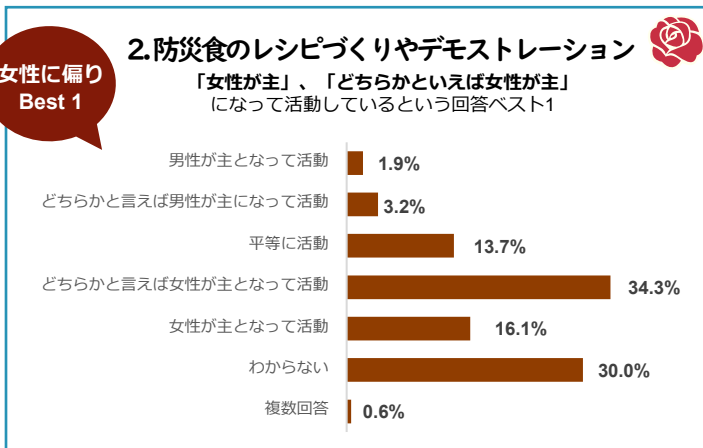
# 地域防災活動における女性の関わり方は？

地域防災活動における女性の関わり方を次の項目について伺いました。

- 子ども・親子・高齢者などテーマごとの防災活動
- 防災食のレシピづくりやデモンストレーション
- 防災グッズづくりやデモンストレーション
- 防災クイズやゲームの企画や実施
- 防災教育の企画や実施
- 要配慮者に対する支援活動
- 小学校などで行う防災訓練の企画や実施
- 消火・救出などの実技訓練
- 救命・応急手当てなどの実技訓練
- 避難所の役割分担
- 避難所のルールの策定
- 避難所の部屋割り・レイアウト計画
- 被災後の復興計画の検討
- 地区防災計画の策定

## 1 地域防災活動における男女の関わり方の偏りについて伺いました

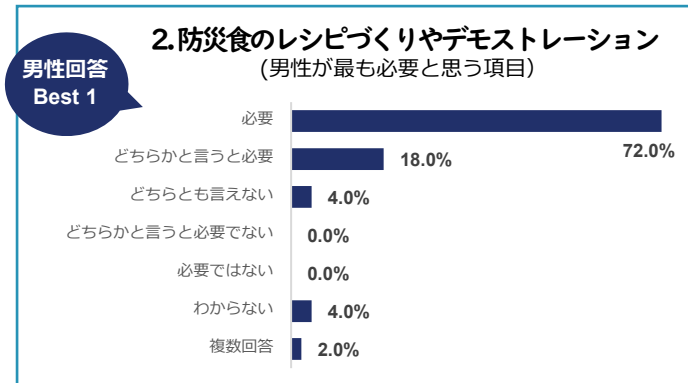
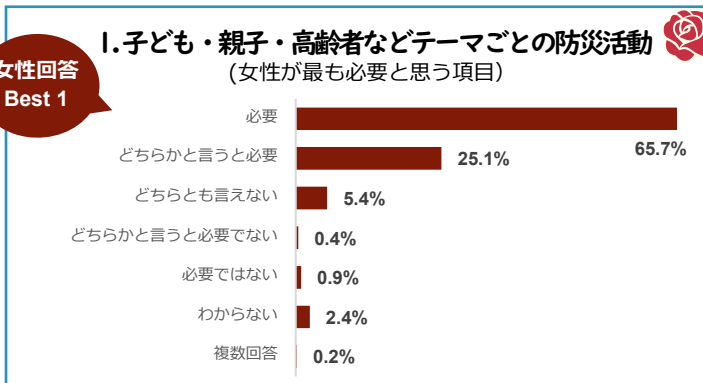
グラフは、上記項目のうち男女それぞれの偏りがあるとの回答が最も多かった項目です。



## 2 地域防災活動の推進のために女性参画が必要かどうかについて伺いました

上記項目全てに「女性の参画が必要」との回答が最多でした。

その中でも特に、女性の回答では「1. 子ども・親子・高齢者などテーマごとの防災活動」であるのに対し、男性の回答では「2. 防災食のレシピづくりやデモンストレーション」が最も多い項目でした。



### まとめ

アンケートによって、今後の地域活動・地域防災活動において男女共同参画を推進するためには、「情報が届いていない」「時間がないと参加できない」「参加しにくい・関わりにくい」という課題を解決し、まずは地域活動に参加してもらうというプロセスを踏む必要があることが明らかになりました。

### 今後の予定

#### 女性と防災に関するアンケート 報告会

日時：2023年3月開催予定

詳細につきましては、  
Webサイトなどで後日お知らせします。